

■授業展開例

【授業展開例 1 (週 2 時間の場合)】

週 2 時間と想定し、1 レッスンあたりの配当時間を 3 時間とした。GRAMMAR COMPASS を Speech よりも前に扱う場合も考えられるが、ここでは教科書順に授業を展開する場合を想定する。

- 1 時間目 : Warm Up, Model (pp.7-8)
- 2 時間目 : Speech (p.9)
- 3 時間目 : GRAMMAR COMPASS (p.10)

1 時間目

	指導手順	留意事項	時間
1	<p><b>Warm Up (p.7)</b></p> <p>① 自分自身のことを整理しながら、1 の表を埋めさせ、その内容について尋ね合うペアワークに取り組みさせる。</p> <p>② パートナーを変更しながら、ペアワークを何度か繰り返す。</p> <p>③ 2 で、交換留学生の自己紹介の音声を聞かせる。聞きながら、あるいは聞き終えたあとに、メモに必要な情報を記入させる。</p> <p>④ 教科書 p.8 のモデル文を見ながら、自己紹介をもう一度聞かせ、モデル文を見ずに聞いたときには理解できなかった部分に下線を引かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し手には、聞き手にメモを見せるのではなく、自分の言葉で声に出して伝えるよう促したい。</li> <li>・ 気づいた工夫や意識すべきことはワークシートやふり返しシートに記入させるようにする。</li> <li>・ 時間に余裕があれば、下線を引いた箇所を理解できなかった理由についての自己分析をさせる時間を設けてもよい。(音が聞き取れずに理解できなかったのか、単語や文法がわからなくて理解できなかったのか、瞬間的に意味の処理ができずに理解できなかったのかなど)</li> </ul>	20 分
2	<p><b>Model (p.8)</b></p> <p>① 本文を黙読させる。</p> <p>② 教師のあとに続いて音読練習をさせる。</p> <p>③ EXPRESSIONS で挙げられた表現に関連する箇所や GRAMMAR で扱われた英文を中心に本文の内容を解説する。</p> <p>④ Sounds の内容を解説したのちに、教師のあとに続いて音読練習をさせる。</p> <p>⑤ TRUE OR FALSE に取り組みさせ、解答を確認する。</p> <p>⑥ Improvement Tips の音声を聞かせる。</p> <p>⑦ Opening にあたる部分に注目しながら読み上げ方の特徴や工夫を考えさせる。</p> <p>⑧ モデル文や Improvement Tips の英文をもとにスピーチを実演するアクティビティに取り組みさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシートなどを用いて、生徒の取り組みを可視化するようにする。</li> <li>・ 音読は 2 つのフェーズに分けて取り組みさせ、Sounds を導入する前とあとの音読を比較して、生徒の姿勢を評価する。</li> <li>・ ⑦を宿題扱いとし、⑧を次回の授業の冒頭に取り組みさせることも可能である。</li> </ul>	30 分

Part/Task	観点	技能	評価規準
			(L: 聞く / R: 読む / I: 話す (やり取り) / P: 話す (発表) / W: 書く)
Warm Up	知識 技能	I	自分のことについてのやり取りを即興で成立させることができる。
		L	Gregory の自己紹介スピーチの内容を聞いて、空所にキーワードを補充することができる。
Mode	思考 判断 表現	I	自己紹介のOpening について、どんな声の高さ、大きさ、速さが効果的なのかをGregory の自己紹介スピーチをもとに考えることができる。
		R	Gregory の自己紹介スピーチを読んで、全体の大意を掴むことができる。
Speech	知識 技能	R・P	インプットした内容とともに、用いられている表現、文法事項、発音やイントネーションの特徴、構成面の工夫を理解し、それらを音読やのちの言語活動の中で活用することができる。
		R・P	自分が自己紹介のスピーチをする際に活用できることが何かを考えながら、Improvement Tips の英文を読み、それを実演することができる。
Speech	知識 技能	W	Model で学んだ語彙・表現、構成の工夫を取り入れながら、アウトラインや原稿を書くことができる。
		P・W	Opening における問いかけの効果的な活用法、読み上げ方（声の高さ、大きさ、速さなど）の工夫について理解している。
	思考 判断 表現	I・W	原稿やその読み上げ方について、ペアやグループでアドバイスし合い、それをもとに自身のスピーチをブラッシュアップすることができる。
		P	読み上げ方（声の高さ、大きさ、速さなど）の工夫を取り入れて、スピーチを実施することができる。
GRAMMAR COMPASS	知識 技能	W	例文とその解説からさまざまな英語の文型を理解することができる。
		W	「文の要素」に関する1・2の問題に正しく解答することができる。
		P・W	さまざまな文型を3のアウトプットの中で適切に活用することができる。
	思考 判断 表現	P・W	小学校時代の、中学校時代の、そして今のお気に入りの教科を伝える英文を書く上で、できる限り多く文型を用いることができる。

Part/Task	観点	段階	評価規準
全体	主体的 に学習 に取り組む 態度	1	単元目標を正しく理解し、自分がこのLesson で身につけるべきことや取り組むべき活動を概観しようとしている。
		2	自分のことを紹介するスピーチに取り組むことを見据えて、それを表現する上で必要な単語や表現、文型などを主体的に身につけようとしている。
		3	自分のことを紹介するスピーチに取り組む中で、足りない語彙や表現を補完したり、Improvement Tips で扱われたOpening を魅力的なものにするテクニックを思い出したりといった自己調整をしている。
		4	Lesson 全体の学びをふり返り、当初の目標に対して自分がどれくらい達成できたのかをメタ的な視点でふり返ろうとしている。
		5	ふり返りの内容から自分の課題を認識し、それを改善するために何をすべきかを自分なりに導き出そうとしている。